

自由な空気です…

協会創立50周年と新組織が発足した頃の2016年9月の機関紙に筆者は次のように書いています。

「…本務の時間を割いてまで、何のために協会の仕事をするのだと苦言を呈する方々が一部におられるのも事実です。確かにそれも一理ありますが、館に閉じこもっているだけでは限界があります。一歩踏み出して他館の状況を直に知ろうとすること、他館のメンバーと膝を突き合わせてface to faceで議論することは結果的に自館にフィードバックされます。そして、交流によって起きる刺激、そして生まれる信頼関係とネットワークはそれぞれの館活動が幅広く深まりのあるものになっていくと思います。新たな観点を見出すヒントもたくさんあると思います。そんな場が「博物館協会」なのです。加盟館の共通なプラットフォームとしての「協会」の存在する意味がここにあると思います。」

今読み直してみても、8年経た今もこの思いにあまり変化はありません。最近では、機関紙の紙面も充実し、さまざまな課題に取り組む専門部会や地域ブロック部会の活動も活発となっています。県外にも協会の活動が認知され広く知られるようになってきました。

一昨年度改正された新博物館法では、「…資料の相互貸借、職員の交流、刊行物及び情報の交換その他の活動を通じ、相互に連携を図りながら協力するよう努めるものとする。」(第3条)と、他の博物館などとの連携協力が博物館の事業として明記されました。その連携の一つの形として岐阜県博物館協会の最近の活動が注目され、昨年度の全国博物館長会議(2023年7月5日・千代田区)では、先進的取組として事例発表をする機会をいただきました。

先述の8年前の思いをベースにこれから次のようなことを大切に考えていきたいと思っています。まず、小さな博物館のことで。現在、協会

の事業として研修や集会、見学会などを開催しても、時間的、人的な状況が整わず参加できない加盟館園があります。108の加盟館園、規模の大小はあってもそこにいる人たちの博物館への思いは同じだと思います。逆に小さいところこそその強みもあります。少しでも多くの館園が関わるような機会を設け、ともに活動できるような手法を考えていきたいと思っています。

二つ目は、同じような目的や趣旨で組織されている会や団体、関連する学会などとの情報共有です。県内には岐阜県歴史資料保存協会、郷土資料研究協議会等があり、また全国の関連学会として日本展示学会やミュージアムマネジメント学会、全国美術館会議などもあります。そんな団体とのネットワークにより新たな見地や視点が生まれ協会の活動がさらに充実したものになると思います。

最後に、枠にとらわれない自由な空気です。博物館利用者や地域に対して博物館の社会的な役割はこれからも大きくなっていくと思います。そんな中、あまり形式ばらず自由で緩やかな気持ちで対応していくことが大事だと考えます。ちょっとした「遊びごころ」から新たな発想や展開が生まれていくと信じています。

可児光生(岐阜県博物館協会 会長)



楽しくいきましょう【地域ブロック(東濃)集まり 協会HPより】

「播隆院一心寺の寺宝」開催

はじめに

城台山(揖斐川町)上の播隆院一心寺は、播隆上人ゆかりの寺として、親しみを込めて「ばんりゅうさん」と呼ばれており、春と秋(お彼岸のお中日)の「地獄絵」公開は揖斐の風物詩となっています。揖斐川歴史民俗資料館では、令和5年度の特別企画展として「播隆院一心寺の寺宝」を開催しました。ここでは、展示について紹介し、その苦勞についても書かせていただきます。

播隆上人について

槍ヶ岳開山(本人は「開關」とされている)で有名な播隆上人は、天明6(1786)年、富山県(旧大山町河内)で生まれ、諸国を宗教遍歴した後、念仏専修を求めて深山の岩窟や山中で修行を行い、文政2(1819)年、34歳の頃より南宮山奥の院、さらには伊吹山の岩穴などで山籠をして修行されました。伊吹山での修行を終えた播隆上人は、揖斐の長沢、竹中兩名の依頼を受け、文政12(1829)年、揖斐の長源寺で別時念仏を行い、天保元(1830)年には岡田家家老柴山氏(長兵衛か)によって城台山上に播隆上人を開祖とする「播隆院阿弥陀堂」が建てられました。

その後播隆上人は5回の槍ヶ岳登山を試み、天保5(1834)年4回目の登山では、槍ヶ岳の山頂に「寿命神」を安置し、登山者のために「善の綱」と呼ばれる藁の綱を掛けました。なお、天保11(1840)年には、信者らの手により槍ヶ岳山頂に「鉄鎖」がかけられています。同年10月21日、中山道を美濃へ帰る途中、太田宿脇本陣林家(美濃加茂市)で播隆上人は55歳で大往生されました。現在、播隆上人の墓は、生家(富山市)、一心寺(揖斐川町)、正道院(岐阜市)、祐泉寺(美濃加茂市)の4ヶ所に遺されています。

播隆院一心寺について

天保元年に揖斐の城台山上に建てられた「阿弥陀堂」は、「阿弥陀寺」を経て明治12(1879)年に「播隆院一心寺」と改められました。その後、明治24(1891)年の濃尾地震で建物が倒壊し、明治28(1895)年に現在の場所に再建されました。一心寺に遺る瓦には、「天保3年」「明治26年」の年号が刻まれており、それぞれ当初の建立時、地震後の再建時に関わる貴重な瓦と考えられます。

なお、現在の一心寺は、平成26(2014)年からは播隆山正道院(岐阜市)の住職が兼務住職と



一心寺に遺る播隆上人ゆかりの品々

左から…円空仏、播隆上人の法衣、錫杖頭

なり、管理されています。

特別企画展「播隆院一心寺の寺宝」

今回の特別企画展は、揖斐川町による『揖斐川町の文化財』図録刊行事業での一心寺の文化財調査がご縁で実現することとなりました。

正道院のご厚意により前述の「地獄絵」(「十王變相地獄界略図」)10幅をはじめ、播隆上人の書かれた「南無阿弥陀仏の六字名号」、播隆上人の位牌、「上人の木像」、「托鉢碗」、「円空仏」、「法衣」、「錫杖頭」、「槍ヶ岳開山に使用した大錠」、さらには播隆上人について書かれた『開山暁(道)播隆大和上行状略記』とその「版木」9点、「香時計」、「曼荼羅」、「涅槃図」、「後水尾帝王・東福門院殿・安国院殿の位牌」など、一心寺の貴重な寺宝をお借りし、展示させていただきました。

これらの中から、円空仏と後水尾帝王他の位牌について少し紹介します。

一心寺に播隆上人の「念持仏」として遺る円空仏は、円空上人が伊吹山で修行していたとき錠で刻んだ仏と伝えられています。江戸時代前期に多数の仏像を遺した円空上人は、伊吹山や笠ヶ岳にも登っており、山岳修行を行う修験者でもありました。播隆上人と円空上人をつなぐ貴重な資料といえます。

後水尾帝王・東福門院殿・安国院殿の位牌は、天保元年に、御堂関白家元中御門大納言女(松蓮社徳忍播通)が一心寺に贈ったものです。京都の寺院で供養ができなくなり、播隆を頼って一心寺に託されたもので、位牌中央の後水尾帝王は江戸初期の天皇、右の東福門院はその夫人(徳川秀忠の娘)、左の安国院殿は徳川家康のことであり、位牌を入れる厨子には菊と葵の御紋がみられます。大納言女は、播通の名からも播隆の弟子となり、播隆の帰依者であったと思われる、天保9(1838)年には播隆の生家に「川内道場」の扁額を贈っています。

一心寺の「地獄絵」について

一心寺の「地獄絵」(「十王變相地獄界略図」) 10幅は、明治28年に一心寺が現在の地に再建された際、信徒によって寄進されたもので、昭和48年に表装の仕立て直しが行われ現在に伝わっています。

「地獄絵」は、今でも春と秋の「お彼岸」のお中日に、一心寺の本堂に、「賽の河原」「二河白道」「曼荼羅」とともに掲げられ、多くの参詣者に親しまれています。

「地獄絵」に描かれた「地獄」は、源信(942～1017)が『往生要集』の中で説いた「八大地獄」が元となっています。地獄の恐ろしさを民衆にわかるように描かれた「地獄絵」は、現生において人としての生き方(「殺・盗・姪・飲酒・妄語(嘘をつく)」の悪行をしない)の戒めを狙い、民衆に善行を勧める絵図であり、さらには「どう生きたらよいか」を人々に問うているといえます。そして地獄に堕ちず極楽往生するには、一心に仏を想い念仏する以外にはないと説かれました。

特別企画展の準備での苦勞について

今回の特別企画展開催にあたりまずは播隆上人についての関連資料や文献(「参考文献」参照)を集め、知識を得るところから始めました。並行して、播隆上人にゆかりの地を訪ねました。生誕地である富山県の旧大山町、上宝地区(高山市)、最後の地となった中山道太田宿(美濃加茂市)、さらには正道院(岐阜市)…これらの地を訪ねることで展示へのイメージが徐々に膨らんできました。

一番大変だったのは、播隆上人が修行された「播隆屋敷」の現地を訪ねた時です。春日古屋地区のさざれ石公園の近くから知人の案内で伊吹山の東の峰、標高約千メートルの現地を目指しました。苦勞の末に無事目的地にたどり着き、現地に建てられた石碑に手を合わせた時は胸が一杯になりました。と同時に播隆上人がここで何日も修行され、上人を慕う多くの人々でまるで市のような賑わいだったという光景を頭に描き、改めて播隆上人の偉大さを感じた次第です。信者によって「播隆屋敷」に建てられた阿弥陀如来像(石像)は、その後春日笹又地区に移され、お地藏様として地元の人々に信仰されており、現在も「地藏祭り」が続けられています。昨年の夏、コロナ明けで久方ぶりに開催された「地藏祭り」に参加させていただきました。「播隆上人」と書かれた旗が掲げられているのを見ながら、私自身初めて知った春日地区の播隆上人



特別企画展「播隆院一心寺の寺宝」の様子
右手奥に「地獄絵」の展示、左手前には「瓦

ゆかりの地について、今回の展示では是非とも紹介したいと思いました。

次に大変だったのは、地獄絵の展示に関わったの展示解説作成でした。一心寺に遺る地獄絵に描かれた絵を眺めながら図書館等で借用した地獄についての書籍を見て自分が理解できたところから解説文を作りました。これまで漠然としていた地獄絵についての理解が深まり、来館された方への解説に大いに役立ちました。

おわりに

今回の特別企画展には、地元をはじめ遠方からも多くの皆様にご来館いただき、改めて播隆院一心寺に遺る播隆上人ゆかりの文化財を通してふるさとの歴史や文化について触れていただくことができたことと感謝しております。これからもふるさとの歴史民俗を守り継ぎ、発信していきたいと心から願います。

小谷和彦(揖斐川歴史民俗資料館長)

参考文献

- ・揖斐川歴史民俗資料館『令和五年度揖斐川歴史民俗資料館特別企画展リーフレット 播隆院一心寺の寺宝』2023年
- ・揖斐川町歴史民俗資料館『ばんりゅうさん 播隆上人と一心寺』揖斐川町歴史民俗資料館、2003年
- ・揖斐川町教育委員会編、揖斐川町人物に関わる読み物の編集委員会編『郷土読本 揖斐川町ゆかりの人物』揖斐川町、2009年
- ・漆間戒定慧『開山暁播隆大和上行略記』棚橋智仙、1893年
- ・安田成隆『山岳佛教 念仏行者播隆上人』安田成隆、1970年
- ・黒野こうき『播隆入門』まつお出版、2014年
- ・黒野こうき『求道の念仏行者 山の播隆』まつお出版、2018年
- ・黒野こうき『伝統の念仏聖 里の播隆』まつお出版、2018年
- ・黒野こうき『南無の紀行 播隆上人覚書』樹林舎、2018年

能登半島地震被災に伴う 飛騨みやがわ考古民俗館 レスキュー活動報告

実施日：令和6年4月25日(木)

場 所：飛騨みやがわ考古民俗館

参加者：協会加盟館員、もの部会員、飛騨市職員
他、計19名

令和6年1月1日16時10分、石川県の能登半島珠洲市を震源地とするマグニチュード7.6の地震が発生した。その影響を受けて飛騨市「飛騨みやがわ考古民俗館」の展示資料が被災。その中には県の重要文化財「堂ノ前遺跡出土品」(435点)の一部が含まれていた。

2月18日付で飛騨市教育委員会から依頼された被災状況の調査と文化財に関する技術指導に対して、岐阜県博物館協会可児企画委員長が事前調査を行い(これについては協会のNews Letter No.194 [2024年3月発行]で報告済み)、3月30日、もの部会を中心に「飛騨みやがわ考古民俗館調査事業」を立ち上げ、参加者を募り、レスキューの方針と活動内容について協議を進めた。

4月25日、もの部会員及び加盟館員が現地に赴き、被災資料の修復、展示資料類の防災展示措置を行い、あわせて展示・保存環境に関する意見交換会を実施した。なお、被災資料に県の指定文化財が含まれていたことから、岐阜県の担当課職員も加わり現状と作業後の確認を行った。

本稿ではレスキュー活動後にももの部会で集約した内容と、5月30日の総会の後の研修会でを行った事例発表を基に今一度ここに報告する。



考古エリアケース内清掃作業

活動概要

被災資料は縄文土器10点、民具土雛2点、オルガン1点の計13点。冬季は雪に埋もれ、休館となる当民俗館では、電源の復旧などの時間も

要したため、4月27日に予定された開館の直前の4月25日を活動日に設定、参加者を募った。当日は、日常的に飛騨市で土器の修復などを行っている飛騨市教育委員会文化振興課より7名、もの部会員7名、部会外の加盟館員として考古の専門家3名、可児委員長、県の文化伝承課担当者1名の併せて19名が参集した。

実際に土器の接合の経験がある者を始め、考古、民俗、歴史、美術、それぞれの分野の学芸員が集まった。11時半までに各自現地に集合し、11時半から皆で現場を確認、作業分担を行った。

2日後の有人開館を控えて、まずは被災資料の修復、次の地震に備えての防災措置、開館の前に必要な清掃、の3つが優先課題となった。

作業は大まかに、1. 土器接合を含む修復作業、2. 考古資料の展示状況の確認と減災のための展示改善、3. 民俗資料の落下防止のためのテグスによる固定、4. 被災した土雛のケース内の展示方法の改善、5. ガラスケース内文献資料等の安全対策と清掃、防虫剤取り換え、6. 民俗館全体の清掃と開館のための準備、に分かれた。

1. 土器接合を含む修復作業

飛騨市の作業員が、破損した土器を接着剤、Qテックスで接合。途中、作業員と協会の考古系メンバーと検討しながら、協会の持ち込みによるクレイテックスの使用を試みた。同時に県担当者により指定文化財の修復作業の確認が為された。

2. 考古資料減災のための展示改善

ガラスケース内にある展示資料を移動させつつケース内を清掃。その後、耐震対策としてシリコンチューブ、シリコンシート、テグスなどを使って展示復旧作業を行った。資料の下に敷かれていたフェルトを撤去し(虫害対応、滑り防止)、シリコンシートに変更した。

また、資料破損が起きた原因である展示台の揺れについての耐震補強について意見交換した。



ガラス棚上の土器をシリコンシートとウェイトを用いて固定

3. 民俗資料落下防止のためのテグスによる固定

措置すべき優先対象資料は民俗館側により、あらかじめマーキングがなされていた。

有孔ボードに掛けただけのノコギリや狩猟用の槍等の刃物類はテグスで、台に置かれた鋭利な金物が付属する民具はピンとテグスで固定した。有孔ボードの穴にテグスを通すのに太い針が必要となり、クリップを代用して糸通しを作成した。



台上の刃物は有孔ボードの穴にテグスを通し固定

4. 被災した土雛のケース内の展示方法の改善

転倒した土雛については、現状では寝かせた状態での展示が倒壊・破損を防ぐ一番の手立てと考え、劣化し虫害が発生していた敷布のフェルトを撤去し、土雛(自立不安定なものは寝かせた状態)の下に滑り止めシートを入れた。



フェルトを撤去、滑り止めシートを入れ一部は横に倒して展示

その他、危険と思われる個所について各自の判断で減災・保存対策を行った。ケース内に立てかけられたそろばんの転倒防止や、文献資料等の入ったケース内の防虫剤の交換、清掃など、時間の許す範囲で整備を行った。

活動を終えて

作業終了後、活動を通して実際に役立った展示や防災に関する資器材、展示環境などについて、使用した実物を前に皆で意見を述べた。



壁に立てかけられたそろばんをワイヤーで固定

●施設の展示保存環境への提案

- ・仮設照明や仮設パネル、壁掛けの額装作品、ガラス棚などの防災については今後の課題。
- ・古文書類は中性紙封筒などでの保管を推奨(もの部会より中性紙支給)。
- ・防虫剤を改めて防虫・忌避剤として資料に適切なもの・方法を検討するとよい。
- ・剥製は他資料と区分け展示し、燻蒸する必要がある。剥製の緊急対応として密閉状態で薬剤処理するなど対策が必要。
- ・布資料が直接ピンで固定されており、資料に負荷をかけない展示方法への変更が必要。
- ・施設の温湿度調査の推奨(もの部会より温湿度計を貸し出す)。

●レスキュー活動について

- ・必要な備品・消耗品がレスキュー対象によって大きく異なるため、事前調査の段階で対応できるよう今後、動画やオンラインなども活用して現地の情報共有ができるとうい。
- ・各館から持ち寄られた資器材は参考になるものが多く、シリコンシート、シリコンチューブ、テグス、ピン、鉛玉など、対象によって、有効な太さや大きさが全く異なることから事前に試すことができる「防災展示資器材試供品パッケージ」の作成が提案された。

まとめ

それぞれが得意とする分野で動きつつお互い声掛けをしながら不足を補うといった流れが自然と出来、半日強という短時間にもかかわらず、最大限の成果を上げることができた。作業後の意見交換会では、現場で必要な資器材についての具体的な情報交換ができ、大変有益な時間となった。

さらなる詳細な報告については岐阜県博物館協会 HP もの部会活動の項をご参照ください。

もの部会長 正村美里(岐阜県美術館)

令和6年度 岐阜県博物館協会通常総会

日時：令和6年5月30日(木) 13:00～13:50

場所：岐阜県博物館

マイミュージアム棟3階けんぱくホール

参加者：83名(委任状を含む)

令和6年度通常総会が、5月30日に岐阜県博物館マイミュージアム棟3階けんぱくホールにて開催されました。

通常総会における議題は

- ① 役員の改選について
- ② 令和5年度事業報告及び収入支出決算の承認について
- ③ 令和6年度事業計画及び収入支出予算の決定について

の3議題で、賛成多数によりすべて承認可決され、新会長は美濃加茂市民ミュージアムの可見光生氏となりました。



また、令和6年度岐阜県博物館協会表彰については、瑞浪市陶磁資料館の砂田普司氏が受賞されました。



渡邊千尋(岐阜県博物館協会事務局)

令和6年度 会員研修会 「岐阜現代美術館 桃紅館一 構想から開館まで」

日時：令和6年5月30日(木) 14:00～16:00

場所：岐阜県博物館

マイミュージアム棟3階けんぱくホール

「新規開館した美術館」として、2024年3月28日に開館した岐阜現代美術館桃紅館(1階展示室173.48㎡、2階アトリエ99.80㎡)の構想から開館までの流れをご紹介しました。岐阜現代美術館は、公益財団法人岐阜現代美術財団が運営する私立美術館として、2006年9月に開館し、主コレクションである美術家・篠田桃紅作品を中心に収集、保管、展示、併せて普及事業を展開してきました。

コレクションを形成していく過程で、アトリエに存在する何気ない物や痕跡は、作家活動を研究していく上で、保存していくべきという考えに至りました。学芸の現場から母体企業へ提案することでアトリエ資料の収集が実現し、2021年秋には美術館建設およびアトリエ移設・再現プロジェクトを立ち上げ、2年半の準備期間を経ての開館となりました。

今プロジェクトにおいて、最終的な状態の忠実復元が最重要課題でした。アトリエは、マンションの一角にあったため、漆喰の梁や土壁などの建造物と一体になった部分は取り外しが困難なため、実測、画像で記録を残し、取り外し移動可能なアトリエにあるものについては全て、概要を把握し、あわせてそれぞれの物が置かれていた場所の記録をとり、アトリエに関する資料は、全て整理しデータ化しアーカイブしています。

また、企業敷地内になる美術館の一側面として、新規美術館建築に企業側と協働することで、美術館(財団)についての理解を深めてもらうことができ、さらに企業の内外活動に美術館を利用していきこうという動きが出てきたことは、財団と企業との新しい関係性へとつながりました。

作家のアトリエは多くの作品が生み出された場所であり、そこに残された創作に関連する資料も含め、貴重な文化資源です。資料からは、これまでの調査・研究では見えなかった創作に関すること、作家の思考やこだわり、書簡や写真から見える交友関係など作家に関する深い情報を得ることができました。

世界に誇る篠田桃紅コレクションを所蔵している財団として、それら資料の散逸を防ぎ、次の世代に受け継いでいかなければならないという理念のもと、所蔵する1,000点を超す作品や作家活動を研究していくことに留まらず、作品展示とアトリエの保存、公開によって、事業の更なる充実を図っていききたいと思います。

宮崎香里(岐阜現代美術館)



令和6年度 会員研修会 「トキハクプロジェクト 土岐市の新博物館建設計画 について」

日 時：令和6年5月30日(木) 14:00～16:00
場 所：岐阜博物館
マイミュージアム棟3階けんぱくホール

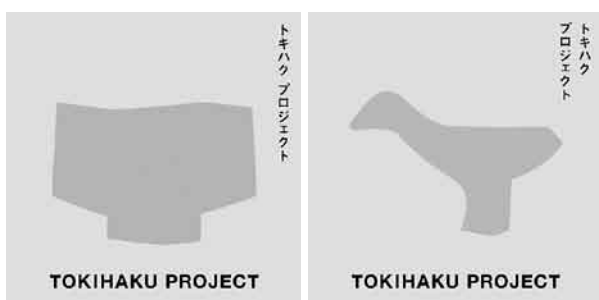
土岐市美濃陶磁歴史館は2024年4月1日から休館に入り、現在地にて新しい博物館へ建て替える計画が進んでいます。土岐市では、2028年開館へ向けた新博物館整備に関わる事業を「トキハクプロジェクト」とし、ロゴデザインを制作してワークショップなど市民への周知活動も行っています。

このたびの会員研修会では新館準備が進行中の事例として発表の機会をいただき、2022年度の基本構想に始まり、基本計画、基本設計に至るまでのプロジェクトの歩みをご紹介させていただきました。建て替えという初めての経験に直面し、他館で経験や専門知識をお持ちの方たちに、これまでたくさんの方々に教えていただきながら現在に至っており、館や人とのネットワークの大切さを実感する日々です。この研修会は、ご協力いただいた方たちに感謝しつつ、私たちの経験をまた次の館へと受け継ぐ機会にできたらと思い、お話をさせていただきました。

発表内容の詳細は割愛しますが、最後に研修会のまとめとしてお伝えした、博物館の整備事業を進める中で最も必要と感じてきたこと4点を以下に記させていただきます。

1. 組織の内部で日ごろから何かと議論できる土壌をつくっておく。
2. 説明する力を身に着ける。
3. 一度、博物館学の基礎に立ち帰る。
4. 他館とのネットワーク・人脈づくりをしておく。

春日美海(土岐市美濃陶磁歴史館)



トキハクプロジェクトロゴ

第176回 公開講座(飛騨ブロック部会) 「3D データ化合宿2024」

期 日：令和6年7月27日(土)・28日(日)
場 所：飛騨みやがわ考古民俗館他
参加者：21名

飛騨みやがわ考古民俗館は、年30日開館に留まるものの、資料の見える化を進め、2022年には飛騨市合併後最多となる入館者数を記録した。その根幹を支えるのが、自由な利用を前提とした資料の3Dデータ公開である。その特長は、講師を招聘して一般公募で行うことで、今年で4回目となる。講師は趣旨に賛同するお2人で、野口淳氏(公立小松大学)、森健人氏(路上博物館)である。今回、募集枠13名であったものの21名の応募があり、講師を1名増員して対応した。参加者は、西は山陰・東は北関東からであり、自分の技術を活かす中～上級者、技術を磨きたい初級者、飛騨市を助きたい初心者であった。立場も国立博物館研究員・大学生・飛騨市ファンなど様々である。

企画は2日間で行った。遠方からの参加が多いため初日の昼から2日目の昼までで、早出・居残り作業も可能とした。作業は、資料に対し100カット以上の撮影を行い、ソフトウェアにデータを流し込んで3Dデータを作成する。各参加者のデータ保管は当館で行い、石棒クラブが著作者を明記してCC-BYで公開する。初日の夜は講師から「博物館における3Dデータの意義」について講話があり、皆で意見交換した。

参加者には、当館の抱える課題解決に力を貸したい意識がある。合宿は、このようなポジティブな動機の方々が交流する場であり、資料への愛着が深まる場となっている。「次も参加したい」との感想が多く、今回も再訪率は4割であった。今後も意義も発信して活動を継続したい。



3Dデータ化合宿での作業・意見交換の様子

三好清超(飛騨みやがわ考古民俗館)

令和5年度 岐阜ブロック部会活動報告 「岐阜を学ぶ日(R5.11.19)」

日 時：令和5年11月19日(日) 10:00~12:00

場 所：岐阜市柳ヶ瀬周辺

参加者：8名

共 催：岐大図書館学術アーカイブズ

「柳ヶ瀬日常ニナーレ」の2年目の56プログラムのうちの一つ、「楽市場の跡をたどる なんて市場ができたのかな：「岐阜でブラタモリ」の再放送を記念、信長が加納に認めた楽市場」という企画でした。

以前にも「長良川おんぱく」で、神田町通りのパブリックアートツアー(山本真一：岐阜市加藤栄三・東一記念美術館館長、2018年)、岐阜のミュージアム・ライブラリー・アーカイブス MLA ツアー：岐阜県図書館世界分布図センター・岐阜県美術館・岐阜市科学館見学、2019年11月10日)を同じ共催で行っています。

残念ながら終了しましたが、NHKの人気番組の「ブラタモリ」で案内(2017年放送)した信長時代の楽市場(円徳寺前)から範囲を広げて、織田塚(信長の父・信秀を道三が破る)、若宮通りの榎森神社前に移転した市場、さらに東の土岐氏の時代からの瑞龍寺前のサイカチの市、そして柳ヶ瀬商店街まで歩いて回りました。

定期市の楽市場から、明治中期の岐阜市の発展の中で全国的にも知られた柳ヶ瀬商店街(常設市)でしたが、今年(2024年)7月の高島屋の閉店があった一方で、全国的にも大規模な毎月のサンデービルジングマーケットのマルシェ(現代の定期市)が繰り広げられ、ことしも柳ヶ瀬日常ニナーレの3年目の66もの多彩なプログラムが10~12月に開催されます。



富樫幸一(元岐大)・須山知香(同教育学部)

岐阜・中濃ブロック部会 岐阜大学図書館学術アーカイブズ・ 美濃加茂市民ミュージアム 連携企画展示会 「植物学の礎^{いしづえ}」

期 日：令和6年3月1日(金)~4月19日(金)(35日間)

場 所：岐阜大学図書館2階エントランスホール

観覧者：7,805名

植物標本館に収蔵されている標本には、植物学にとって重要かつ基本的な情報が詰まっています。植物標本・植物画等は、現代社会を取り巻く諸課題を解決していく手段の学問的な“礎”であるとともに、大勢の人に知と発見の喜びをもたらす自然からの贈り物といえるでしょう。

岐阜大学および美濃加茂市民ミュージアムは、地域と協働した自然史学研究・教育の成果として、多くの人から創り出された植物標本、植物画等の作品を一堂に会した展示会を、岐阜・中濃の両ブロック部会の連携として行いました。

日頃、異なる拠点におられる出品者の方々が、互いの作品を知ることにより、文化学術活動へのさらなる意欲が湧いたとの感想を頂くとともに、図書館を訪れる大学生諸君も熱心に観覧する姿が見られ、とても良い刺激となったようでした。

須山知香(岐阜大学図書館学術アーカイブズ)

西尾円(美濃加茂市民ミュージアム)

岐阜大学図書館学術アーカイブズ・美濃加茂市民ミュージアム
連携企画展示会

植物学の礎 (いしづえ)

Specimens & Paintings: basis of Botany

【会期】2024年3月1日(金)~4月19日(金)
【会場】岐阜大学図書館2階エントランスホール
【観覧】無料

主催：岐阜大学図書館学術アーカイブズ・美濃加茂市民ミュージアム
協賛：岐阜県博物館協会
協力：大垣市教育委員会、岐阜県植物研究会、岐阜県植物誌調査会、
美濃加茂自然史研究会

植物標本館に収蔵されている標本には、植物学にとって重要かつ基本的な情報が詰まっています。蔵書が公開・利用されてこそその図書館と同様に、標本の標本は常に利用されるべきものです。植物標本・植物画等は、現代社会を取り巻く諸課題を解決していく手段の学問的な礎であるとともに、大勢の人に知と発見の喜びをもたらす自然からの贈り物といえるでしょう。本展示会では、地域と協働する岐阜大学の自然史学研究・教育の成果として、多くの人から創り出された作品を一堂に展示します。

展示会への出品募方法

【作品を預ける】
出品した作品を、2月27日(火)までに下記の送料先へ、市配などで送って下さい(無料OK)

【作品を受け取る】
展示会終了後、ご自宅への宅配でお届けします(送料無料)

※展示会がスタートした後、期間中であれば出品を受け付けます。お気軽にお問合せ下さい

展示会に関するお問合せ・出品作品送付先

〒501-1193 岐阜県 岐阜市 1-1 岐阜大学 教育学部 須山 知香
電話：058-233-2298 e-mail: suyama.chika.a2@gfui.ac.jp
※電話へ預ける際には「水曜祝祭日・コフレモ」とし、必ず「展示会出品作品」とお書き下さい

図書館開館期間： <https://www.lib.gfui.ac.jp/download/calendar.pdf>

展示会案内フライヤー

ひと部会活動報告 「岐阜県博物館界の 先達へのインタビュー」 第2弾

収録日：令和5年10月6日(金)
参加者：ひと部会員 4名

ひと部会では令和4年度からインタビュー動画をYouTubeで配信しています。学芸員の大先輩が語る仕事の醍醐味や未来の博物館像についてのインタビュー動画を配信することで、博物館で働く現役の学芸員や職員、これから学芸員を目指す人たちの励みになればと考えました。またこの活動には岐阜県博物館協会の歴史を掘り起こし、協会の存在を広く発信しようというねらいもあります。(詳細は『岐阜県の博物館 News Letter』192号 7頁参照)

第1弾は今春まで当協会の会長を務められた若宮多門氏に出演していただき、3本の動画を公開しました。その後、第2弾についてひと部会で協議した結果、自然の分野で活躍され、協会の草創期に運営に携った小野木三郎氏に出演を依頼することに決定しました。質問項目は事前にお伝えし、撮影当日は4人の部会員で高山市にあるご自宅に伺いました。

小野木氏はいつも緑色の服を着ています。まずはその理由をお尋ねしつつ、植物学の道を歩むことになった経緯から、人との出会い、御嶽山での調査へと話題は展開しました。公害や自然破壊の問題に直面した小野木氏は、自然と人との関わり合いを学ぶ場として自然博物館の重要性を確信したそうです。岐阜県博物館での奮闘、協会の機関誌を作成した思い出、協会の活発な活動の様子など、当時を知る小野木氏でなければ分からない逸話が次々に出てきます。小野木氏は関連する資料を示しながら時々冗談を挟みつつ、終始熱を帯びた口調で信念を持って取り組んだ数々の仕事について語りました。

最後に小野木氏は未来の博物館像として、住民と一緒に活動していく博物館を提唱しました。地域の方々と共に岐阜県の自然の踏査に力を注ぎ、正に実践してきた小野木氏の核心を突く言葉がインタビューの締めくくりとなりました。

実際の撮影時間は2時間程でしたが、今回も15～20分程度の動画3本に編集しました。協会のHPからぜひご覧ください。

和歌由花(美濃加茂市民ミュージアム)

こと部会活動報告 「棚橋源太郎の 生まれた街を歩く」

日時：令和6年3月5日(火) 13:30～15:00
場所：本巣郡北方町内
参加者：約20名
協力：棚橋源太郎顕彰委員会
北方町文化財保護協会

「わが国博物館育ての親」と呼ばれる棚橋源太郎(たなはしげんたろう/1869-1961)は、現在の岐阜県本巣郡北方町の生まれです。源太郎は東京の高等師範学校の訓導となつてからは住まいを東京に移しましたが、幼い頃を過ごした北方の町のことは大切に思っていたようです。それは晩年まで共に過ごした友人たちや岐阜県出身の在京の人々との交流を続けたことから伺えます。

本講座では源太郎が過ごした北方の森町を歩きながら、幼い頃に住んでいた場所や今ものこる史蹟などの文化財を巡り、源太郎が過ごした当時の町の様子を想像したりしました。案内は棚橋源太郎顕彰委員会と北方町文化財保護協会の皆さんのご協力を得ました。

源太郎が生まれ育った森町は今も地名として残っていますが、正確な生家の場所は不明です。しかし「このあたりであろう」という目星をつけて、参加者の皆さんと岐阜街道を歩きました。宮崎惇さんの『棚橋源太郎 博物館にかけた生涯』(岐阜県博物館友の会、1992年)では関係者に聞き取りをし、「源太郎の生家」の挿絵を掲載しています。本書にある通り、家の東に小さな水路のある溝のある場所がありました。その場所から南の方を見ると、大井神社の一部が見えます。この神社はきょうだいや友人たちと遊んだとされ、「なるほどこれほどの近さだったのか」と感じました。そして、きょうだいと寄進した子守神社の鳥居や代官屋敷跡(源太郎が学んだ化成舎のあったあたり)などを歩いて見て回りました。また西順寺の「時の太鼓」や円鏡寺、美濃派俳諧水上道場跡などの文化財も併せて巡りました。

「北方はこの付近の政治の中心地であつたと同時に、商業や文化の中心地」(宮崎前掲書1頁)とされる豊かな文化の雰囲気や、そして幼い源太郎を育んだ町の様子を、実際に歩き肌で感じる事ができた時間でした。

西尾円(美濃加茂市民ミュージアム)

令和5年度 岐阜ブロック部会活動報告 「岐阜ブロック部会施設見学会と 岐阜県植物研究会 春の研修会&観察会」

期 日：令和6年3月10日(日)
場 所：内藤記念くすり博物館
参加者：19名
共 催：岐阜県植物研究会

今回の企画では、午前中に岐阜県の植物に関する講演を3題行っていただきました。また、午後に当館の温室をご覧いただきました。

講演では、岐阜県で新たに確認された外来植物ハタケウロコゴケの拡大状況と除草剤を用いた駆除効果について(高橋氏)や、近年岐阜県で新たに発見された植物及び今後見つかりそうな植物種リストの紹介(高野氏)、岐阜県植物誌(2019)の発刊以降、新たに発見された植物に関する発見経緯の紹介(福岡氏)がありました。毎年10種ずつ岐阜県初記録の植物が増えている現状や発見に至る具体的な経緯・調査法の紹介は、出席者の研究意欲が掻き立てられるような内容であったと思います。また最後に当館から、本年より岐阜県の絶滅危惧植物の保全を開始した旨の告知もいたしました。



午後の温室案内では、職員数名で薬用及び有用植物について解説をさせていただきました。カカオの生果実の食味体験、保護増殖中の絶滅危惧植物解説など、物珍しい体験を通して、楽しみながら解説を聞いていただけたようです。

当館には最大300人が入る会場があり、今後とも博物館及び植物研究の発展の場として気軽に使っていただきたいと思う次第です。

立松和晃(内藤記念くすり博物館)

編集後記

ひと部会の活動の1つである「岐阜県博物館界の先達へのインタビュー」の動画が追加で公開され、協会ホームページから閲覧可能となっております。



その他、各部会での活動、各加盟館の活動が情報共有しやすいようホームページを随時更新しております。協会ホームページの運用についてよりよい方法等がありましたら、事務局を通してこと部会までご連絡ください。ホームページ、SNSを通して、加盟館園のつながりが深まっていければと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

岐阜県博物館協会は令和8年度に創立60周年を迎えます。事務局では、創立60周年に向けて記念事業のアイデアを募集していますので、アイデアをお持ちの方があれば、お気軽に協会事務局までお寄せください。

《参考》主な創立50周年記念事業…講演会の開催、記念誌の刊行、ミュージアムスタンプラリー
また、協会のもの部会、ひと部会、こと部会では部会員を募集しています。各部会の事業内容・活動拠点は以下の通りですので、参加を希望される方は協会事務局までご連絡ください(各部会の担当へおつなぎします)。

- ・もの部会／資料の保存・活用、ミュージアムレスキュー／岐阜県美術館
- ・ひと部会／職員の研修・資質向上、他機関との連携／岐阜県現代陶芸美術館
- ・こと部会／機関誌発行、HPの運営、調査研究・報告／美濃加茂市民ミュージアム

岐阜の博物館 News Letter No.195

編集：岐阜県博物館協会「こと部会」

発行：岐阜県博物館協会

事務局：〒501-3941 関市小屋名1989(岐阜県博物館内)

(電話)0575-28-3111 (FAX)0575-28-3110

(URL)<https://www.gifu-museum.jp/>